学力向上推進チームかわら版

あしすと

第 50 号

発行　令和2年 12 月 15 日
富山県総合教育センター
学力向上推進チーム
TEL:076(415)6226
E-mail suishin@tym.ed.jp
http://gaku.el.tym.ed.jp/

がんばる富山の
先生を応援！

学力向上講演会（国語科）

11 月 12 日（木）
婦中ふれあい会館

演題　「国語科における深い学びの視点からの授業改善
～資質・能力を育成する指導と評価の一体化を目指して～」
講師　大妻女子大学　家政学部　児童学科　准教授　　樺山　俊郎　先生

１１月１２日（木）に行われた学力向上講演会のポイントになるところをまとめました。

※　講演会資料は、学力向上推進チームのＨＰからダウンロードできます。（令和３年２月末まで）

学習評価から授業を変えていくためのポイント

これまでの学習評価の課題

- 学期末や学年末等での事後の評価に終始してしまうことが多く、評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない。
- 従来の「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど､性格や行動の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解がある。
- 教師によって評価の方針・方法が異なる。
- 教師が評価のための「記録」に労力を割かれ、指導に注力できない。
- 相当な労力をかけて記述した指導要録が次の学年や学校段階において十分に活用されていない。

学習評価の改善の基本方針
～　真に意味のある学習評価とするために　～

①　児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと

教師が、児童生徒に対して、できていることや改善できそうなところがどこかを伝えることが大切です。

②　教師の指導改善につながるものにしていくこと

児童生徒の「分からない」「できない」という状態を､「自分が『分かりにくい』授業をしているために、児童生徒が『できない』状態になっているのではないか」と捉えます。教師が、振り返りのベクトルを自分自身の指導方法に向け､よりよい指導方法を考えていくためのツールとして評価を捉えることが大事です。

③　これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」

「指導に生かす評価」とは

①　「指導に生かす評価」の基本はＣをＢにすることです。

Ｃ（努力を要する状況）の児童生徒を把握し、その状況に指導を加えて改善を図り、Ｂ（概ね満足できる状況）に到達させるために行うのが「指導に生かす評価」です。

②　「指導に生かす評価」は毎時間行いますが、毎時間評価（ＡＢＣ）をしなくてはいけない（記録に残さなければならない）という義務感をもつ必要はありません。

例えば、「〇〇さんと△△さんは、今日の授業ではＣの状態だったから､彼らがＢになるように指導の手立てを考えなくては」と、教師が考えることが大切です。毎時間、「昨日はＣだった。しかし、指導した結果、今日はＢだった」と記録を残していく必要はありません。

「記録に残す評価」とは

①　「指導に生かす評価」に基づいた指導を繰り返した上で、その結果として、計画的に、単元における「時間のまとまり」で全ての児童生徒に評価を行うのが「記録に残す評価」です。

「記録に残す評価」は、最後にまとめて行うだけのことではありません。

【例】　単元の途中でミニテストを行い、その単元で身に付けるべき「知識・技能」の評価をすることも考えられます。

実際に評価を行う際のポイント

- 本時の目標に対する学習評価は、「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」のどちらなのかを意識して、計画的かつ集中的に行うことが大切です。
- どちらの評価を行う場合でも、評価の計画の段階で、評価のＢ規準について児童生徒の発言や記述等の具体的な姿をイメージしておくことが大切です。

【例】　「ごんと兵十の様子や行動、気持ちの変化について想像している」という評価規準を作成した場合、Ｂ規準の「想像している」はどのような発言や記述をした姿であるかを具体的にイメージしておきます。

「深い学び」を実現するための単元構想及びまとめと振り返りのポイント

「深い学び」を実現する単元構想のポイント

1　目の前の児童生徒の実態に基づき、
2　年間指導計画の見通しの中で、
3　身に付けようとする資質・能力（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）を明確にし、
4　必要な教材を選定し、その特性（その教材の何「を」教え、その教材「で」何を教えるのが適切か）を捉えた上で、
5　適切な言語活動を位置付けて時数を配当します。

「深い学び」につなげるまとめと振り返りのポイント

まとめや振り返りに入る前に、「今日は、〇〇という課題に向かって、みんなで……のように学んできました」と学習を振り返った上で､以下のような指示を出すことが考えられます。

- **今日の課題に対する答えを書きましょう。**
  ※　このときに、時間・字数・条件を指示することが大事です。
- **その答えにどのようにたどり着いたのかを書きましょう。**
  →　メタ認知する力が高まります。
- **前の時間よりもできるように（うまく）なったことを書きましょう。**
  →　自己肯定感を高めます。
- **次回はどんなことに気を付けて学ぶか考えましょう。**
  →　学習を調整する力が高まります。

学習評価の基本的な考え方や、各教科等における評価規準の作成及び評価の実施等の解説及び、単元や題材に基づく学習評価の事例は、国立教育政策研究所が令和２年３月に発刊した「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」に詳しく紹介されています。
国研のＨＰからダウンロードできます。
ぜひ、ご一読ください。